



# 災害時の電源喪失対策は

台風被害で岐阜市役所の災害対策本部の電源が約4時間も停電しました。新聞には本部員がランタンで地図を見ている場面が報道されました。今までに無い事でした。外部電源が停電してもジーゼル発電機が自動稼働し、短時間で最低限の電源は確保されます。しかし、十分な容量ではありませんので、冷房は勿論、照明も一部になり暗くなります。

これは、外部電源の早期の復旧が前提で、システムが組まれているのが理由です。4時間も停電（想定外）する経験は本庁舎ではありませんでした。停電用発電機の起動テストは定期的に行なわれていますが、テスト時に4時間も稼働させる事はありません。機械はいつか壊れる事を前提に、考えなければなりません。今回4時間の間に故障がなかった事は幸運と。

外部電源の長時間停電が起きました。常設発電機の故障時の対応を、その対策の構築が大きな課題となりました。消防本部の副対策本部機能はありますが、暴風雨時の本部移動は極めて困難です。

## 北海道だけか ブラックアウト

震度7の大地震での全道停電では、北海道電力のシステムと対応に大きな批判が出ています。泊原発の地域では震度2で外部電源が喪失しました。福島原発の事故を思い出させる事故です。

大規模停電が北海道だけの問題と考える事は危険です。岐阜市均衡で停電が日を超えて復旧出なかった現実が生まれました。水道部も電源が原因で「もう少しで断水」に追い込まれるところだったと、お聞きしました。

避難所への発電機の配置はされたようですが、市役所各支所には自家発電機能はありません。現在、避難所と想定されていない施設も、追加指定されることも考慮し、自家発電機能を充実すべきでは。また、大学の研究施設停電は長期間の研究成果が水泡に帰すことも考えられるとの事です。

## 災害時安心と説明された大電力会社

岐阜市民の「新電力の入札参加要求」に対し、「災害時の電力供給が新電力では心配」だから「実績と信頼のある既存電力会社」での契約を優先し「高い電力を買う理由」と過去に説明されてきました。災害対策本部が4時間も停電する事態になりました。既存電力会社を優先する理由が「消失」したようです。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

# 行政の公平性と投資効果 柳津地区への過度な税金投入

柳津地区への税金投入については、細江前市長の選挙時の合併論議の経過が大きな影響を残しているようです。周辺市町への呼びかけには、良い回答を頂けず、当時の柳津町だけが合併対象となりました。大声で開始された合併論議も、時間と共に尻すぼみになり「柳津町の皮一枚で細江前市長の首は繋がった」と言う市民もみえます。

これらの経過が、財政運営に「いびつ」さをもたらせていないでしょうか。

## 600万円の柳津まつり 一校区に公民館7館

今議会で本庁舎の住民票自動交付機が廃止されようとしています。柳津支所の発行枚数は、廃止されようとしている自動交付機の発行枚数より少なく、1万枚を切ります。当然ながら、支所では最少です。柳津地区のお祭りに600万円が支出されていますが、この金額は、長良川の花火大会2つの合計より高額です。

岐阜市では、公民館は各地区小学校などに併設されている例などが多くありますが、柳津地区には旧柳津町庁舎（現柳津支所）に隣接して、町民会館規模の2建築物が存在し、他に7館もの公民館が存在します。合併後1館も削減されることもなく、一部はリニューアルさえ行なわれています。

## 柳津に道の駅 必要だろうか？

岐阜市の玄関は、現在はJR岐阜駅と、岐阜市民は考えていると思います。市の南の端、羽島市境に旧柳津町が建設した「道の駅」が存在します。年間1000万円以上の税金を消費しています。トイレがあり、お土産も売っていますが、岐阜市の玄関の役割を果たす施設でしょうか。トイレは活かし、水防倉庫などにして税金の節約をと。更には、南端の資源分別回収施設も、他の49校区とのアンバランスを強く感じます。



松原のりかず  
☎058-253-2500